

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	令和3年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症という病気を患い忘れていくことが多く落ち着かない事が多いですが、私達とにも変わりなく同じ「人」、である。当たり前のように生活しているように同じようにして支援する。入居利用者本位を大切に支援に努めている。入居者9名中、若年性認知症の方が現在3名おられ他の入居者様と活動が異なり交流が難しい状況だが、お一人ひとり今を出来ることを先延ばししない。ワクワクする事を積極的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念に基づき、利用者本位の支援を心掛けている。利用者を第一に考え、その人らしく生きがいのある生活をしていただけるよう、喜ぶこと、ワクワクすることを常に模索し実践している。
 ・母体が医療機関であり、協力医との連携もよく医療面で不安なく過ごせている。
 ・セラピー犬がおり、利用者の心の安らぎになっている。
 ・行動の抑制をしない取り組みを実践していることで利用者がストレスなく自分らしく過ごせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・廊下に掲示している。スタッフ会議で 理念に基づき意識改革に努めている。	法人とは別にGH独自の理念を掲げ、利用者に寄り添うという思いを職員で共有し、利用者本位を心掛け実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で現在交流は控えている。近隣の小学校の入学式の御祝を持参、通信を頂くことを継続している。	コロナ禍で直接的交流は控えており、小学校や自治委員、消防団等へ施設便りを配布している。地域の情報をいただくなど継続している。また近所の方からカボスや栗の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人がSOSネットワークに加入しており、必要時捜索に出動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止のため現在中止とし書面会議としている。会議メンバーからご意見を頂き施設の反映に向けている。	2ヶ月に1回、書面にて推進会議を開催している。事業所の取り組み等を報告し、推進委員の方々からいただいた意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回程実績と待機者状況を報告している。 わからない事は行政に相談しやすい環境である。	事業所の実情や待機者状況を報告している。法改定などで分からない事等があれば、電話で相談している。災害の安否について問い合わせがあるなど、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を通し事例検討を行っている。 行動の抑制を行わない取組を行っている。	法人内の委員会で月1回勉強会を行っている。行動の抑制をしない取り組みをしており、玄関は施錠しておらず自由に庭に出入り出来るなど動きを止めないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会を通し、虐待防止について学び虐待のみならず不適切なケアが行われないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各利用者ごとに必要内容を記載してご家族に説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態報告等の際にサービスがいきとどいているか、要望等聞き取りを行っている。ご意見箱を設けているが利用がない状況である。	利用者。家族の意見要望は普段の会話の中からや状態報告、受診時に意識して聞き取りをしている。意見箱を設置しているが利用されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個人的に話を聞き、悩み等一緒に考える時間を作っている。	管理者はスタッフ会議の中で意見を出しやすいよう配慮し、勤務体制についてや行事等の提案や計画書を出してもらうなどサービスの向上に努めている。また、個別に話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員を大切に頂き悩み事も相談しやすく働きやすい環境である。休憩時間を現場より距離を置き確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	統一したケアに向けて情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス質向上委員会を設け法人内全体で取り組んでいる。コロナ禍の影響で現在は他施設との交流が深められていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係を築いていけるようこれから導入するサービスに対して不安に思う事や要望等を伝えて頂きやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがご家族の不安や要望等をお聴きする時間を十分に設け把握し応えていくことで良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に十分に情報収集を行い、適切なアセスメントを行うことでどのようなサービスが必要かを見極め適切なサービスに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴に触れ、又その情報を職員間で共有し尊敬の念を持って関わり、自立した日常生活が送れるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会時等に施設での様子を細かくお伝えし安心して頂けるような関係作りを行なっている。入居者の方とご家族がいつでも気軽に顔を見てお話しが出来るようにLINE電話を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で人の多い場所の外出を控えているが、県内、市内の感染状況を見ながら自宅訪問や自宅周辺、馴染みの場所周辺のドライブを行なっている。	感染状況を見ながら、自宅訪問や自宅周辺、馴染みの場所へドライブに行き、車内で思い出話をしながら関係が保てるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の間で良好な関係づくりが築けている同士などを把握しテーブル配置や座られる場所などにも配慮した支援を行っている。又、職員が間に入りコミュニケーションを取りやすい環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退院されても関係機関との情報交換を行い様子や状況を伺っている。又、同法人施設に移られた入居者の方は常に情報共有し、新しい環境に慣れて頂けるように協力を行なっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けを多く、ご本人の意向を聞き取り把握に努めている。また、聞きとりの困難な方には、ご家族に聞き取りを行ない把握に努め、本人本位の検討を行なっている。	日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合は、家族から聞き取りしたり、職員で話し合い本人本位に検討している。歌の曲によって変化が見られたことなど職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や生活環境等を出来る限り詳しく情報を得て、職員で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、業務前に日誌やケース記録などで現状把握に努めている。また、どんな事でも職員共有ができるよう、伝言板やスタッフ会議などで伝達を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の生活歴を基にご本人らしく生活ができるよう、ご本人を含めた必要関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員が毎月モニタリングを行っている。通院時や電話で家族に意見や要望を聞き、ケア会議で話し合い、出された意見等を反映した現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録やカンファレンス時に担当職員などから日々のケアの実践状況などを聞き取り把握を行ない、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、その時その状況に必要な支援を柔軟に対応し行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通じ各関係者から地域資源を聞き取り把握を行なっているが、現在コロナ禍の為、直接的な交流は無い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが可能な場合でも職員も付き添いを行ない状態を細かく伝えるように行なっている。受診後は御家族・職員間で情報共有を図っている。協力医療機関が往診を行なっている。	以前からのかかりつけ医を受診している人もいる。受診は職員も同伴し、家族、職員間で情報を共有している。近所の内科医が訪問診療を行っており、専門医療等適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり、急変時の支援を受け入れられるように体制をとっている。日常生活での小さな気づきも報告ができ、連携がとれて情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はコロナ禍の為、面会ができないが小まめに入院先の医療機関に連絡を取り、情報の交換や相談を行ない調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重症化や終末期の希望を確認し記録として残している。また、入院した場合、退院後に意向の確認と今後の方向性を相談する場を設けている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針を説明し家族の意向を確認している。状態の変化に伴い家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分説明し支援している。医師から特養入所を勧められたり、入院になることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの取り扱い方法など研修を行っている。又、スタッフ会議の勉強会で必要時、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の影響で年2回消防署の指導と地元消防団と協同で避難訓練は行えず、法人内でも密着を防ぐため現在行っていない。コロナ以前は運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼していたが、現在は書面での協力依頼を行なっている。災害時の備蓄を行っている。	毎月1回避難訓練を行っている。職員は年1回DVDで災害についての勉強会をしている。1昨年3階へ全員歩いて避難したなど、災害に対する避難対策に取り組んでいる。3日分の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の漏洩が無いように個々の情報は外部の目に触れない場所に保管してある。排泄誘導の際には声かけを耳元で行い、入浴や更衣の際も人目に付かない場所で行っている。テーブルや椅子の配置など尊重しトラブルにならないように配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、排泄誘導ではプライドが傷つかないように耳元でさり気なく声掛けをし、トイレや入浴の更衣の場ではプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や生活する中で個々の希望の聞き取りを行い、本人の希望に添った援助、料理、絵、レクリエーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のその日の体調や気持ちを優先し、その方らしい生活が日々送れるように支援を行っている。セラピー犬の世話や日記を書く 港の船を見に行くなど希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが出来ない方は、毎日同じ服にならないように、配慮し個々の尊重を図っている。女性はお化粧、口紅を塗り、男性は起床時髭剃りを実施して整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週土曜日にレストラン形式で昼食を提供しています。季節を感じて頂けるように旬の食材を使用し、能力に応じて調理や片付けを職員と行って頂き、一緒に食事を味わいながら食事が楽しい物になる様支援している。	厨房から届いた食事の盛り付けやテーブル拭きを職員と一緒にしている。また毎週土曜日の昼食をレストラン形式に事業所で季節の食材を使用し職員と一緒に調理し庭に準備したり、テーブルのセッティング等を工夫して食事が楽しい場になるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を毎日記録し、職員全員で一人ひとりの状態を共有し栄養バランス、水分補給を行い体調や運動量、体重の増減、食事のタイミング、介助の方法や食器の工夫をし食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力や口腔状態に応じた声掛けや介助、見守りを行い清潔保持に努めている。必要時歯科訪問診療を受診して頂いている。朝食前に舌ブラシを使用し舌ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員全員で共有、把握しその方に合った声掛けやトイレ誘導、必要があれば自立度に応じた排泄物品を使用し自立に向けた快適な支援を行い、身体機能の回復、自信の向上に繋がるよう支援している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった声掛けやトイレ誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快適な排便へつながるようバナナジュースやヨーグルトを毎日提供している。1日2回の体操や歩行を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人にあった時間に入浴して頂いている。入浴剤を使用し入浴中はお話をしリラックスして頂いている。安心して入れるように1つ1つの介助ごとに声掛けを行っている。入浴後は水分を提供し脱水予防に努めている。	週2回を基本としているが4回の人もある。入浴を拒否する時は、無理強いせず時間を変えたり、翌日にしたり、本人が希望するときに入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢な方や足に浮腫みがある方は食後休息を促している。夕方よりアロマヒーリングの音楽を流し入眠を促している。快適に過ごしていただく為温度調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬をする際は職員同士で薬袋の名前、日付けを声に出し確認をして服薬最中はその場から離れず飲み込み確認を行っている。下剤はその日の排便状況を見て調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や、天候に合わせて得意な事や趣味などを活かして、日常を過ごしていただいている。週一回のレストランでは食材を切っていたり一緒に盛り付けをしたりしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や、散歩など利用者様の希望を取り入れながら、コロナ禍の中でも外出、ドライブ、散歩を楽しめるように工夫している。	近所を散歩したり、海岸や公園、ひまわり畑や紫陽花などを見にドライブに出かけるなど、コロナ禍の中でも、下見をして人のいないところを選んで、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭のお預かりはしていない。必要時にご家族に了承を得て買い物に行き、立て替えを行なっている。現在はコロナ禍の為職員が行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には暑中お見舞いや年賀状を送っている。その際能力に応じて本人に文を書いていたいたり、名前を書いていたいたり。ご家族のご希望に応じてライン電話で会話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、整理整頓し、清潔を保ちご利用者様に綺麗な空間で過ごしていただく様に心掛けている。	共用空間にはソファを3か所に配置し密集を避けゆったりと過ごせるよう工夫し、換気を定期的に行い感染対策を行っている。また玄関にはイベントや行事の写真、季節感のある作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きなテレビやDVDなどをご覧になられたり、ソファでくつろいで頂けるようソファを数か所設置している。距離を開け感染対策に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御家族と写られた写真や、季節ごとの写真等を飾り、ご本人がご自宅で使われていたものなどを持参して頂き、なるべく家庭環境に近いように努めている。	自宅から馴染みのいすやテーブル等を持参し、導線を考慮した家具の配置をするなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等各入り口には張り紙をし場所が分かるように掲示している。物の配置などにも気を配り、危険防止の為に環境整備に努めている。		